



「全国から1000人が来たどばい」 「全国ほんもの体験フォーラムinながさき」

2月10日～12日にかけて、松浦市を主会場に、「第4回全国ほんもの体験フォーラムinながさき」（同実行委員会主催）が開催され、全国から約1000人の関係者が訪れました。

全国各地の体験交流を進める関係者が集い、「ほんもの体験」の普及と体験型観光による地域振興を目指して毎年開催されており、今回は体験型観光地の松浦市を中心に開催されたものです。

この3日間のフォーラムの様子を紹介します。

10日(土)～11日(日)

プレイベントとして県内5会場で7コースの体験ツアーが実施され、約170人が参加しました。

【松浦市】タコ漁・刺し網漁体験

※詳しくは7ページに掲載。

【長崎市】軍艦島クルーズ

【西海市】ゆで干し大根作りと農家民泊体験ツアー

【佐世保市】佐世保エコツアー（シーカヤック・かき水揚げ作業）

【小値賀町】野崎島「無人島」エコツアー

11日(日)

文化会館で、事例発表・記念講演・公開パネルディスカッションが行われ、約1000人が参加しました。第1部の事例発表では、長崎県と

県内の3団体の代表が体験受け入れの取り組みを発表し、青島体験振興会の前浜久昭さん（写真下）は、初めて民泊受け入れをした平成15年の様子から、受け入れの回を重ねることにみんなの生きがいになってきていることなどを方言を使ってユーモアたっぷりに発表しました。

第2部では、東京大学名誉教授の養老孟司氏（写真7ページ右上）が、「心高まる旅」を体験によって得られる心の高まりと題して記念講演を行いました。

第3部の公開パネルディスカッションでは、「日本の観光振興を支える地域の「ほんもの体験」」をテーマとして、コーディネーターの藤澤安良氏と、松浦体験型旅行協議会の田淵正人営業部長などパネリスト4



▲事例発表をする前浜久昭さん

人で討論しました。

また、第4部の情報交換会では、参加者約350人が関係者同士の熱い思いなどを語り合っていました。





第5部の課題別研究分科会が文化会館と平戸文化センターで行われ、各会場で次の内容で議論が交わされました。

12日(月)祝

- ①ほんもの体験がもたらす教育効果
- ②広域連携とコーディネート組織が成功の鍵
- ③農山漁村振興と過疎対策は体験型観光で
- ④団塊の世代への対応とマーケットの拡大



▲講演を行う養老孟司氏

獲ったど〜！ —参加者がタコ漁を体験—



「第4回全国ほんもの体験フォーラム in ながさき」のプレイベントとして2月10日～11日、県内5会場で7コースの体験ツアーが実施されました。

その中の一つの、今福町の沖合いで行われたタコ漁の体験ツアーには約50人が参加。漁船に乗り込み、引き上げたタコつぼから大きなタコが出てくると、参加者から大きな歓声が上がっていました。



松浦のインストラクターに 親切に教えてもらった

高知県大月町体験型観光受入研究会

よしのぶ
山本 慶延さん (高知県幡多郡大月町、49)

私たちの体験型観光受入研究会は、現在、ホエールウォッチングやカヌーなど、どちらかと言うと観光・イベント系のプログラムで修学旅行生の受け入れを行っています。

今回の体験ツアーに参加したのは、体験プログラム開発や研究会会員の意識向上、受け入れによる地域の人たちの反応を直に見てみたいと考えたからです。たこ漁に参加してみて、インストラクターは安全面に気を配られ、漁の手法などをとても親切に教えてくれました。何より明るく元気でしたね。

漁業体験を通して子どもたちが漁を楽しみ、職業観が身につくように思いました。今後の体験プログラムの開発に役立てていきたいと思っています。